

ウェルビーイングに関するアンケート (モデル調査) 分析結果

URC 令和5年度 総合研究
「新たな都市の評価に関する研究（Ⅱ）」

2023年9月
(公財) 福岡アジア都市研究所

「ウェルビーイング」アンケート（モデル調査）概要

- 新たな都市の評価として「ウェルビーイング」という概念に注目
- ウェルビーイングとは、身体的、精神的、社会的に良好で満たされた状態
- ウェルビーイングを政策に取り入れるために把握が必要な、下記3点を調査

目的	<ul style="list-style-type: none"> • 福岡市に住む・関わる人々の <ul style="list-style-type: none"> ① 価値観やウェルビーイングの捉え方（以下、定義）の把握 ② ウェルビーイングの現状評価の把握 ③ ウェルビーイングに影響を与える要因（以下、規定因）の把握 • 分析を通じて、政策に関連し得る要素の抽出
対象	<ul style="list-style-type: none"> • 福岡市の定住人口（住む人） • 福岡市の関係人口（関わる人）
調査期間	<ul style="list-style-type: none"> • 2023年2月

「ウェルビーイング」アンケート調査概要

周知方法

- 定住人口
 - 福岡市西区内浜校区住民（約8,000世帯）への調査票の戸別配布
 - 市役所・区役所における調査票の設置
- 関係人口
 - 以下の団体の協力による、所属会員へのメール案内
 - ◆ 博多駅エリア発展協議会（30会員*）
 - ◆ 博多まちづくり推進協議会（175会員*）
 - ◆ We Love 天神協議会（136会員*）
 - ◆ 福岡地域戦略推進協議会（228会員*）
 - 福岡未来創造プラットフォーム加盟の市内15大学への案内
 - URC賛助会員への案内（55法人、48名）
 - 福岡市Well-being&SDGs登録事業者への案内（395事業者**）

回答方法

- 郵送（紙の調査票）またはWeb（Googleフォーム、Excel）

- 本調査は、把握しづらい個人の主観（考え方・感情）を明らかにし政策に結び付ける手法の実践例として、モデル校区や団体等を対象に実施しました。

調査内容

1. ウェルビーイングについて

- ① 自由記述（日々の幸せ）
- ② 現在と5年後の評価（0～10、10が最も高い）
- ③ 自由記述（今後、より充実）

2. 生活における実感

- 余暇時間、相談相手、楽観性、健康、居住環境、経済状況、主活動の満足度、他の関心事・チャレンジ、選択肢の有無、居場所、地域とのつながり、社会的寛容、利他性

3. 属性

- 性別、年代、世帯構成、職業など

□ 期待する成果

■ ウェルビーイングの定義

- 自由記述は**2段階**で把握
- 「日々の幸せ」だとぼんやり
- 「今後、より充実」を加えて尋ねることでより深い（エッジのある）回答が聞けると期待

■ ウェルビーイングの現状評価

- **現在と5年後**を尋ねることで将来への見通しを把握

■ ウェルビーイングの**規定因**

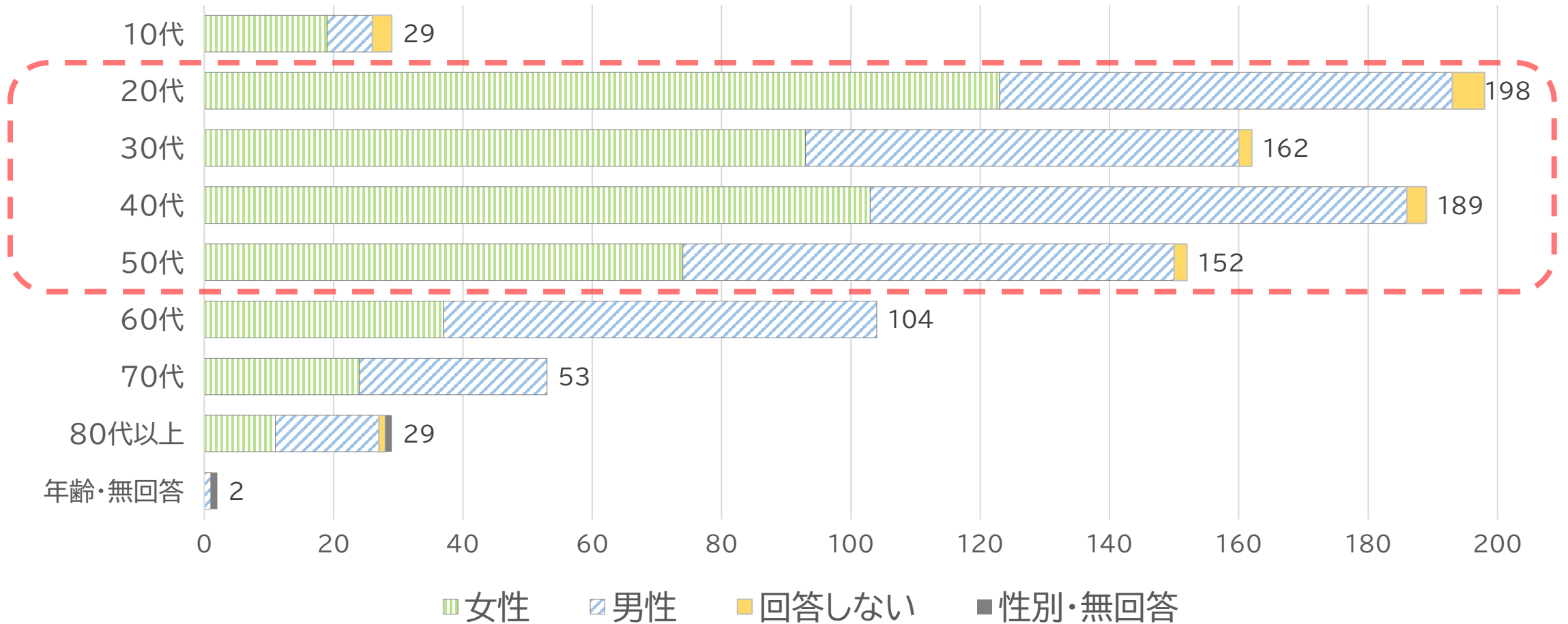
- 価値観と行動
- 影響する要因や影響の強さ

回答者の男女比はほぼ同等、20代~40代が全体の6割

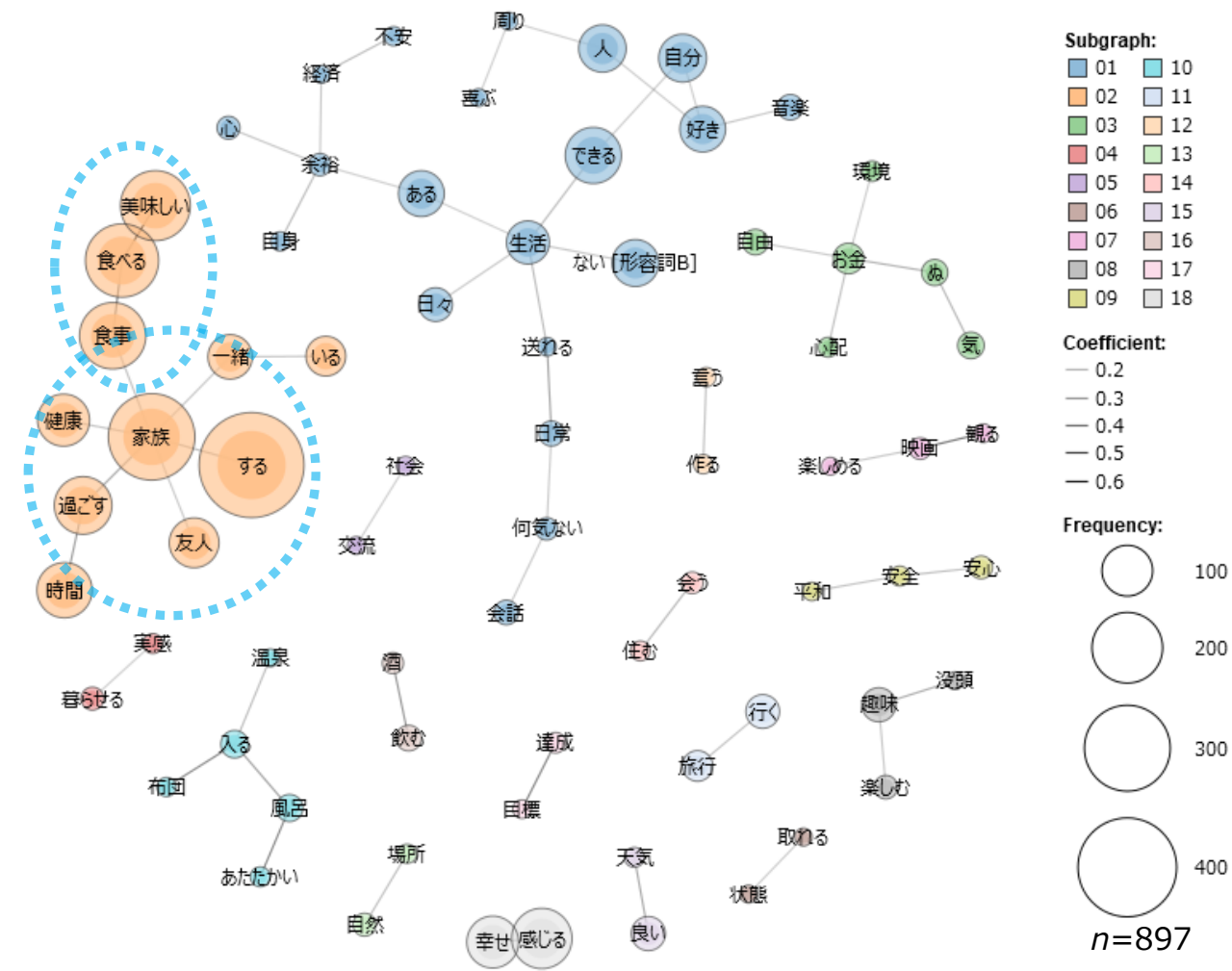
□ 有効回答数 : 918

有効回答数(年齢区分・性別)

n=918



日々の幸せの定義：家族や友人との時間、美味しいもの、健康、仕事



頻出ワード※回答の例（抜粋）

家族：「家族と一緒に食事をしている時」「家族との時間」「家族が楽しく過ごしているとき」「家族の健康」など

食事：「美味しいものを食べている時」、「人と食事をしているとき」、「作った食事を美味しいと言われた時」など

時間：「家族とゆっくりした時間」「穏やかな時間」「趣味の時間」「仕事とプライベートの時間のバランスが取れている状態」など

子ども：「子どもの笑顔」「子どもとのコミュニケーション」など

健康：「家族や周りの人の健康」「自分自身の健康」「心身の健康」など

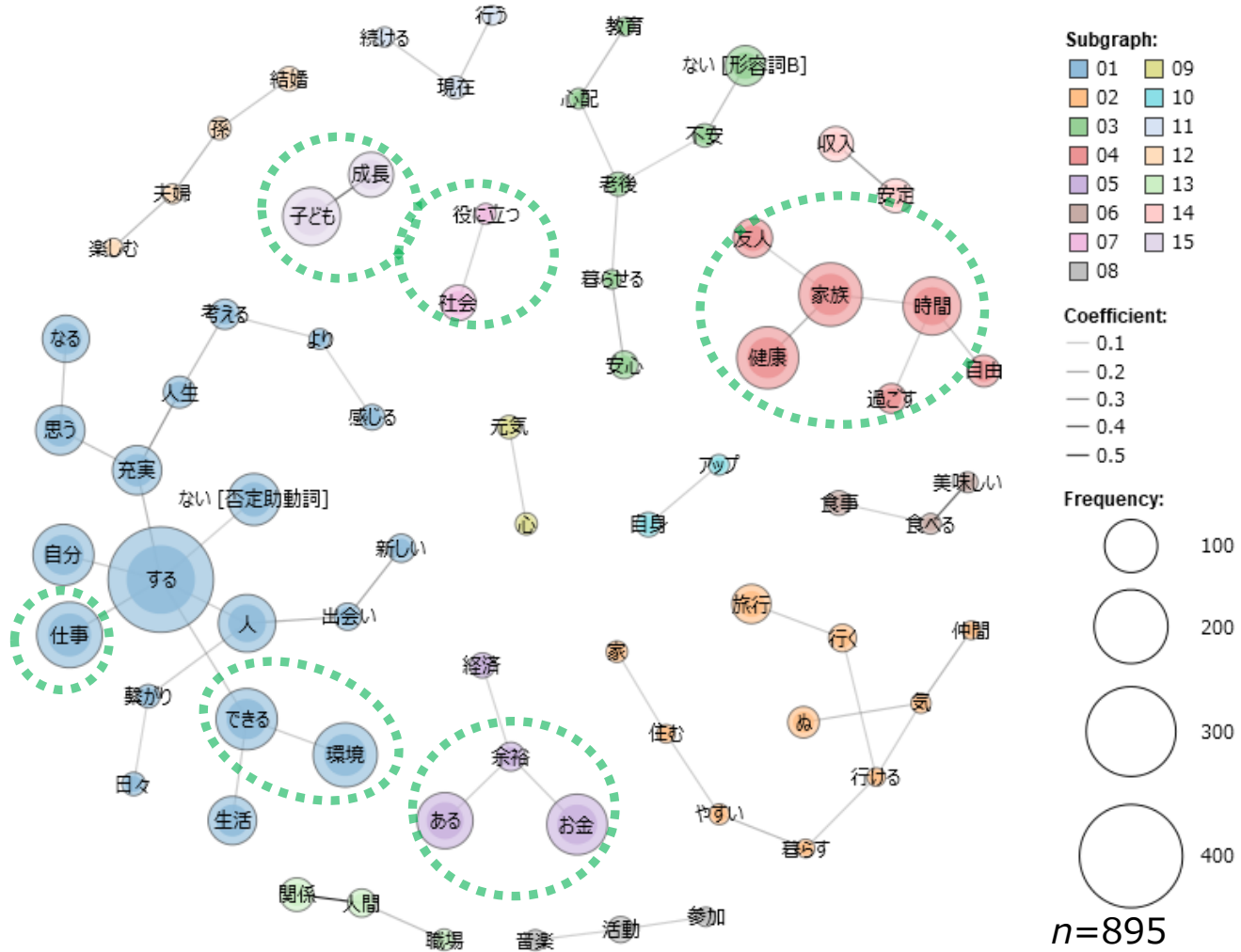
友人：「友人と過ごす時」「友人と美味しいもの食べる時」「友人と話している時」など

仕事：「仕事の後の時間」、「仕事後の活動」、「仕事の有無」、「達成感」、「休日とのバランス」など

自分：「自分の好きなこと」、「自分の時間」、「自分の判断」、「自分の仕事」など

- ・ バブルのサイズは単語の出現数
- ・ 線は共起関係の強さ（文内に一緒に出現）

より充実の定義：仕事の機会・やりがい、家族、健康、経済的余裕



頻出ワード※回答の例（抜粋）

仕事：「仕事ができる環境」「仕事のやりがい」「仕事以外の時間の充実」「仕事と育児の両立」など

家族：「家族の健康」「家族との時間」「家族の存在」「家族の幸せ」「家族に迷惑を掛けないで過ごす」など

健康：「健康であること」「心身の健康」「健康の改善」など

お金：「自由に使えるお金」「経済的余裕」「お金の困らない環境」など

環境：「安心できる子育て環境」「ストレスのない職場環境」「子育て後に働ける環境」「無理せず働ける環境」「静かな環境」「自然を感じられる環境」など

子ども：「子どもの成長」「子どもの自立」「子どもの幸せ」「子どもの存在」など

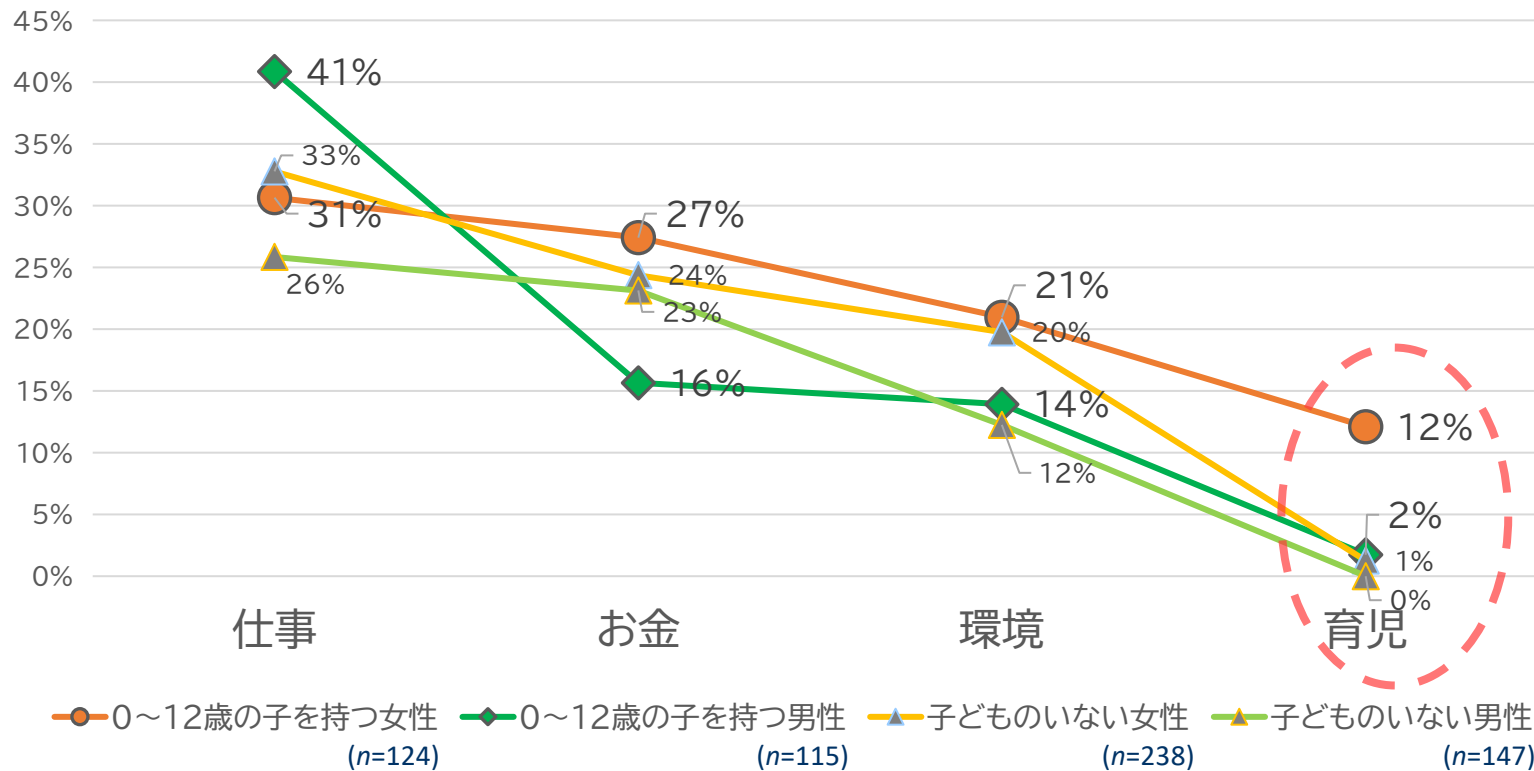
自分：「自分の時間」「自分の健康」「自分の能力発揮」「自分の成長」など

時間：「自由な時間」「時間の余裕」「家族・友人との時間」「お金と時間」など

女性は「仕事」と絡めて「育児」に言及する割合が高い

- 女性は子どもの有無にかかわらず「仕事」「お金」「環境」に言及があり、子どもがいる場合は「育児」への言及が一定数ある。一方で、男性は子どもの有無にかかわらず「育児」への言及が少ない

仕事と育児への言及(子どもの有無別・性別)

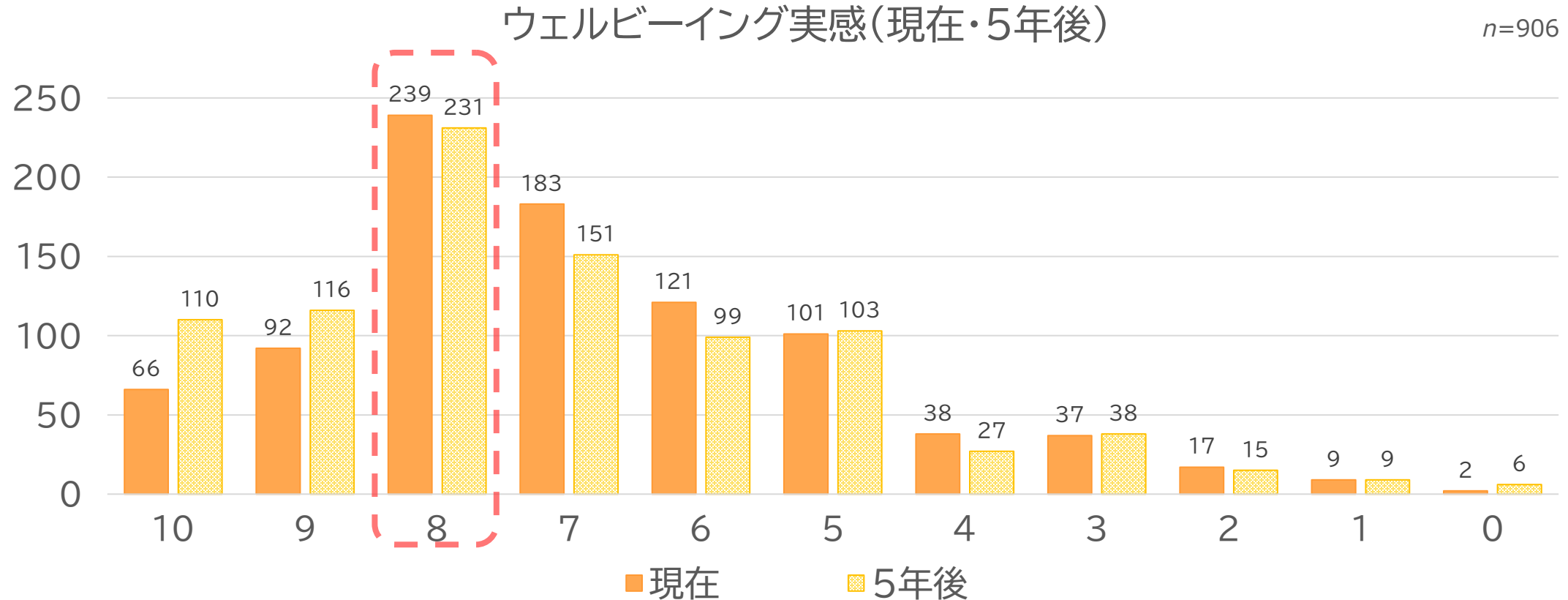


「仕事」「育児」が使われる文脈
※回答の例(抜粋)

「正社員で働いていても、育児中は無理なく働ける環境」「子育てを終え働ける環境」「仕事と育児がストレスなく両立できる環境」「育児をしながらも仕事を持って自分の社会的な居場所があること」など

ウェルビーイング実感：現在と5年後（実数）

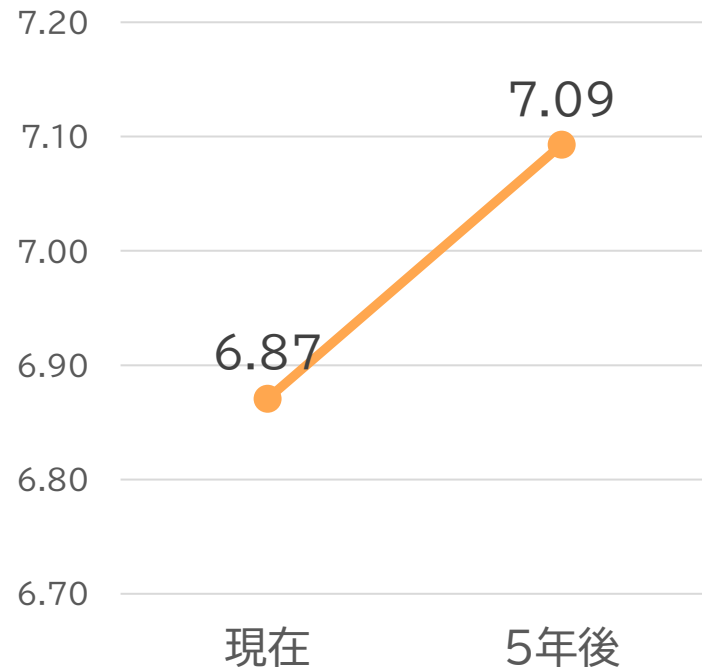
- 日々の暮らしにおける幸せを考えた時に、最も理想とする状態を「10」として、現在（or 5年後）の状態の平均を回答（10～0、10が最も高い）
- 現在・5年後いずれも「8」が最多



ウェルビーイング実感：現在と5年後（平均・割合）

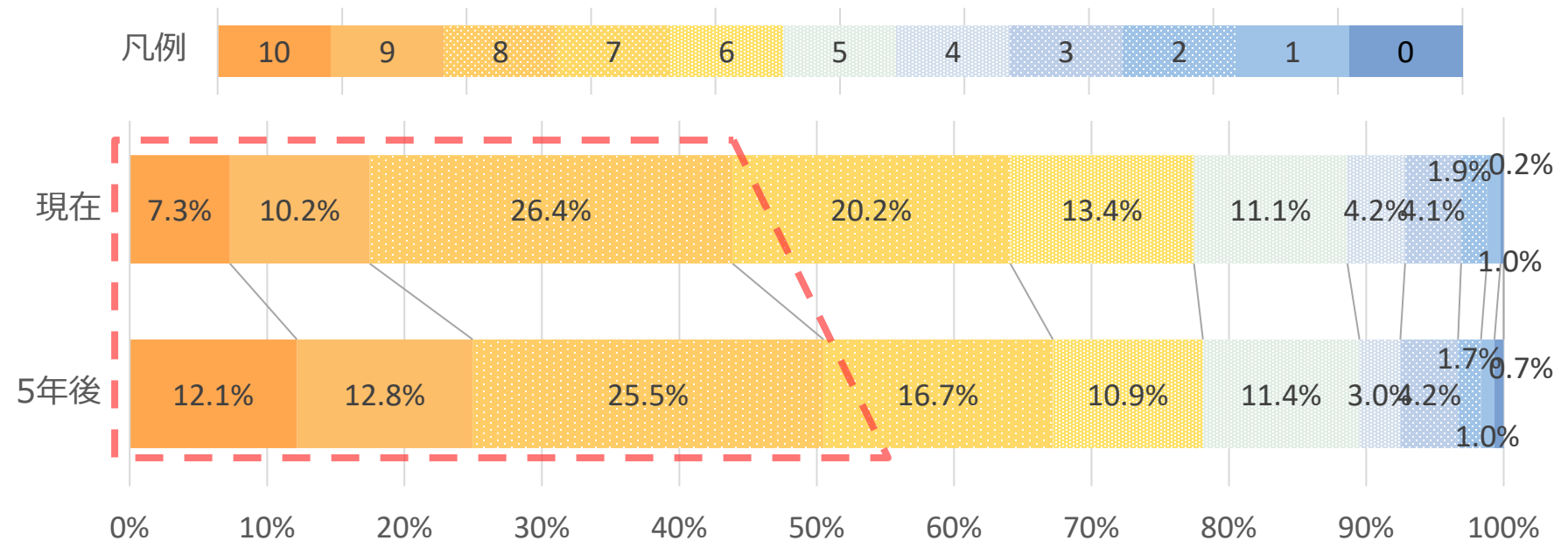
- 平均値は現在評価よりも5年後評価の方が高い
- 現在よりも5年後の状態を高く評価する人が多い

ウェルビーイング実感(平均値)



ウェルビーイング実感(全体)

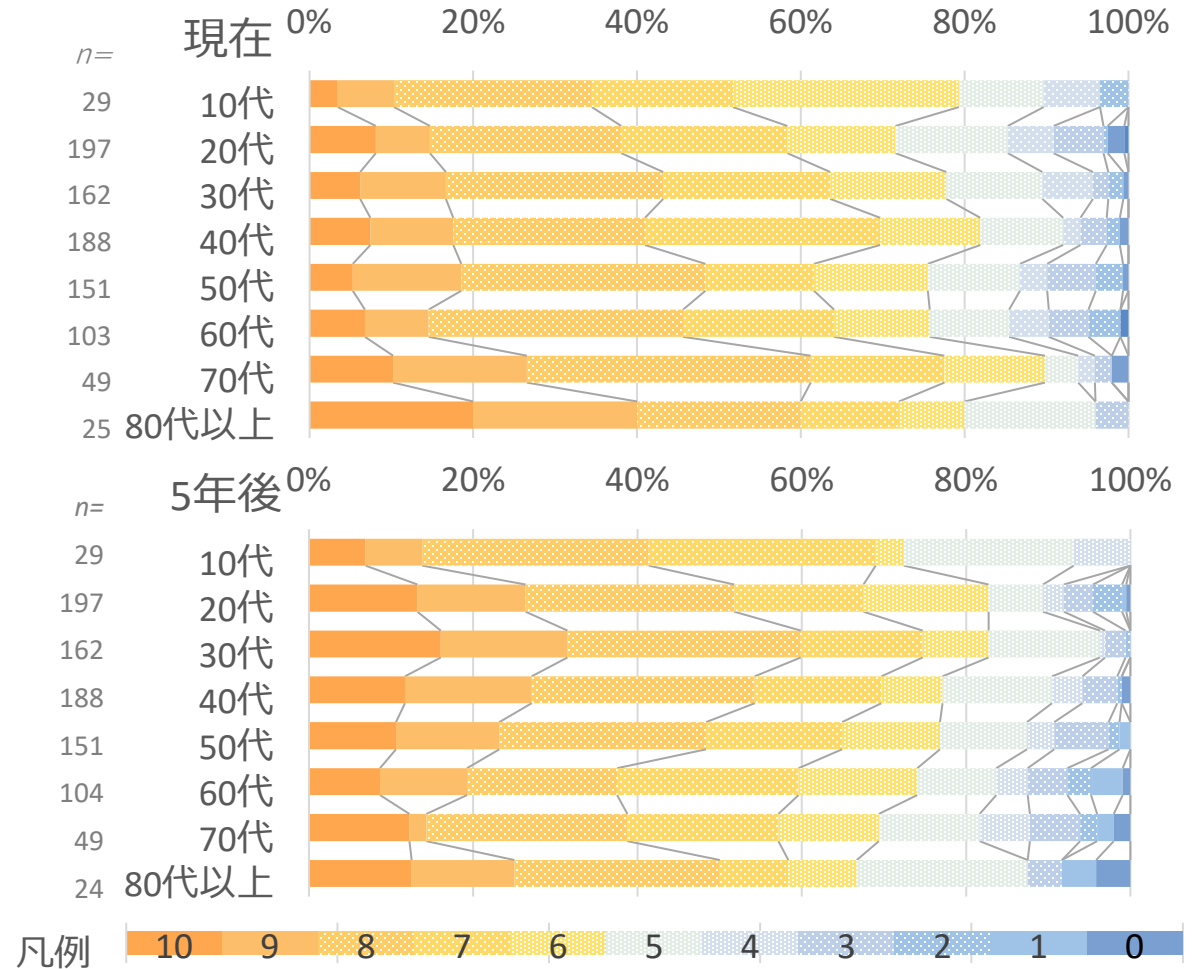
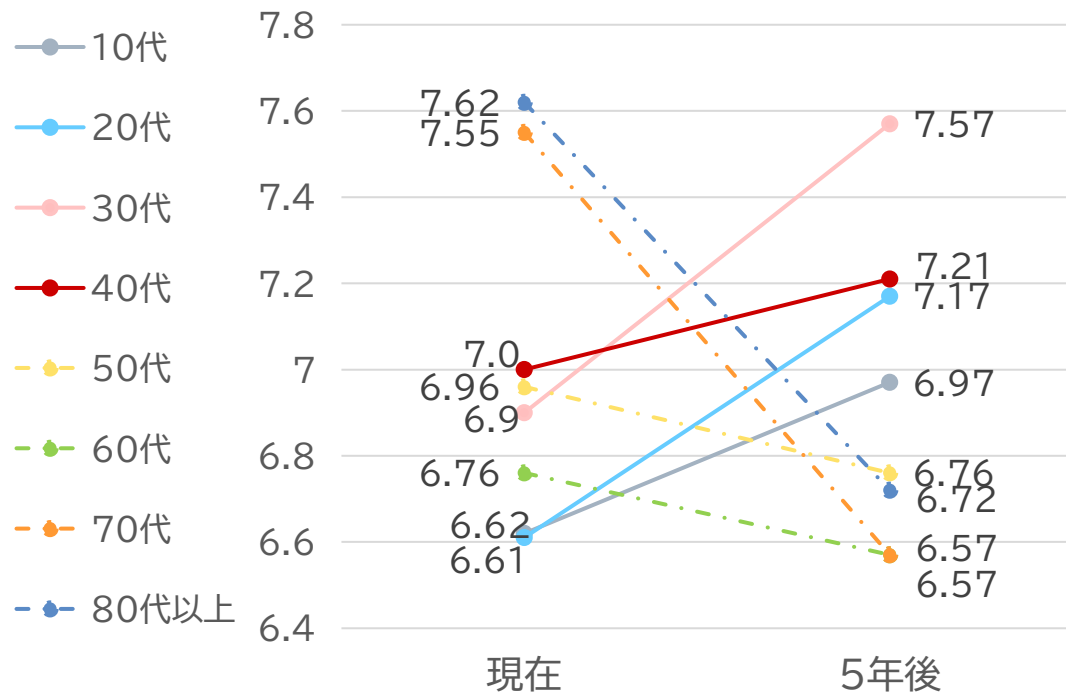
n=906



【年代別】ウェルビーイング実感：現在と5年後

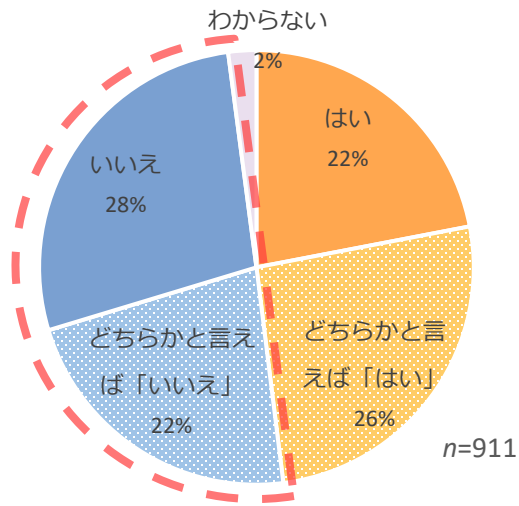
- 現状評価は、70-80代が高く、10-20代が低い
- 5年後評価は、10-40代が希望を持っており、30代が最も楽観視。50-80代が悲観視

年代別ウェルビーイング実感(平均値)

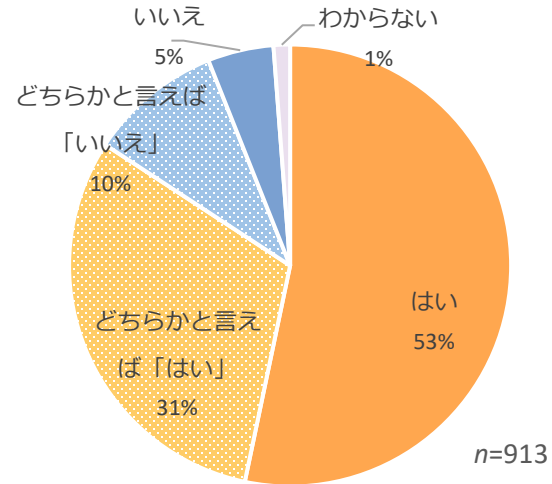


生活における実感 (1/2) 「余暇時間は十分」に否定的回答が多い

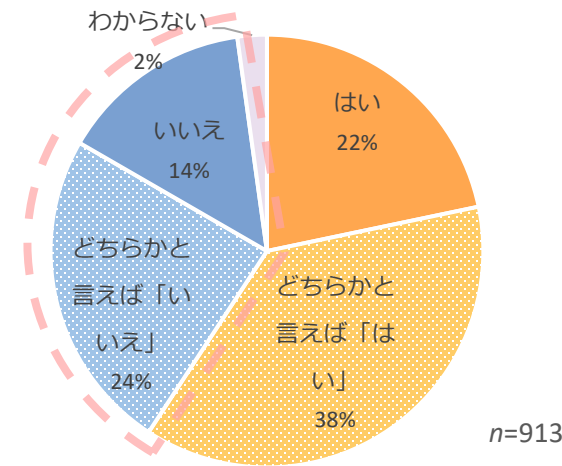
余暇時間は、十分だと感じる



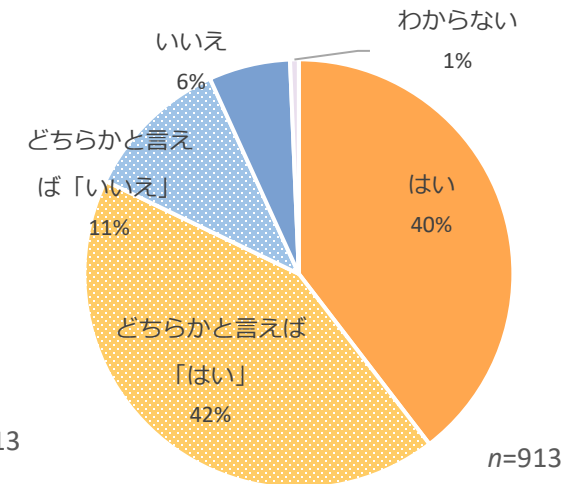
困ったときに相談する相手がいる



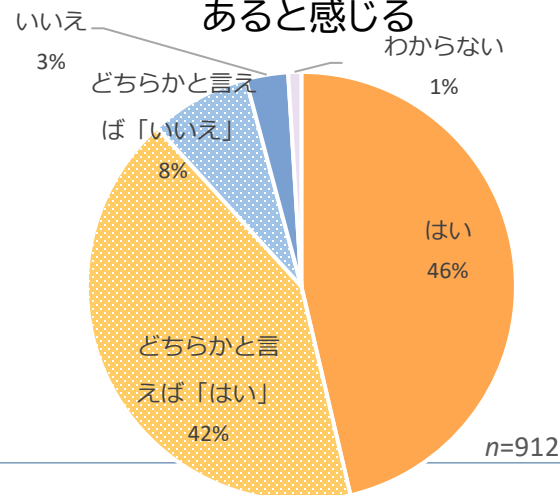
自分は楽観的な性格である



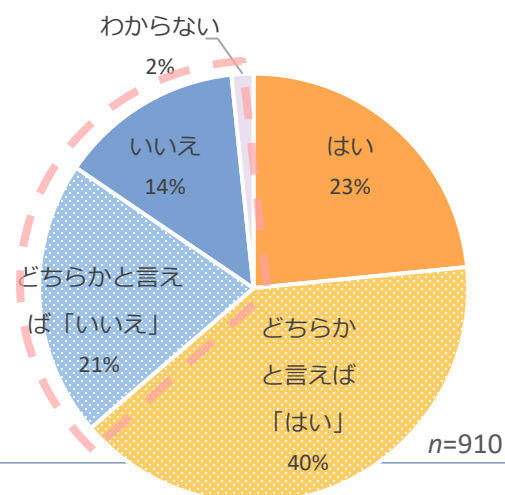
健康である



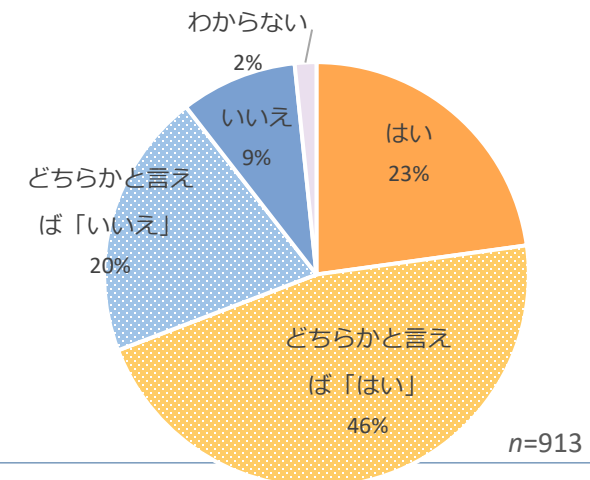
住まいは快適で、安全・安心で
あると感じる



必要な収入を得られている



日常の主な活動に満足している

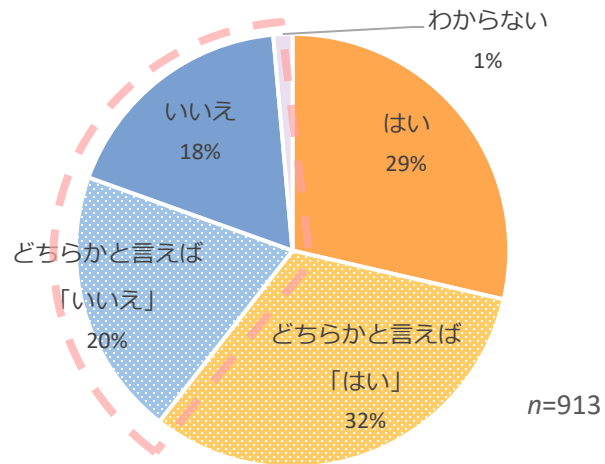


50%以上

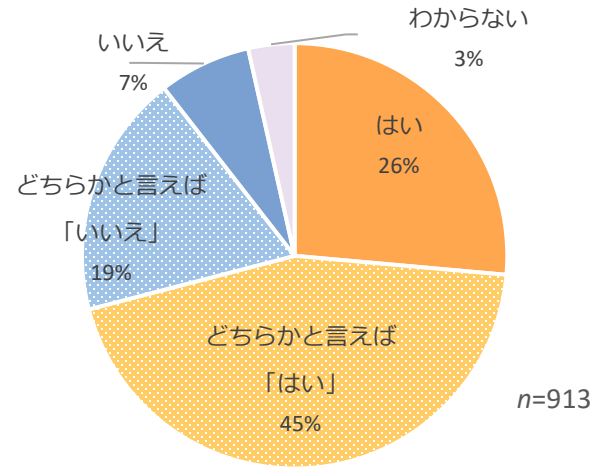
35%以上

生活における実感 (2/2) 「地域とつながり」に否定的回答が多い

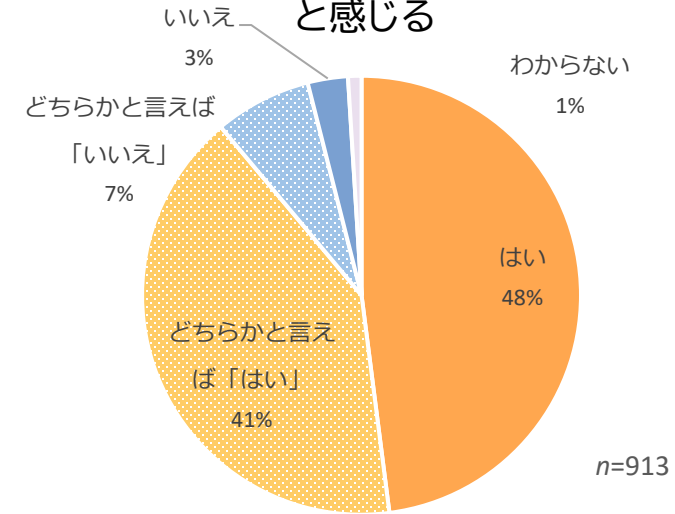
日常の主な活動の他に
関心事や
チャレンジしていることがある



自分にはさまざまな機会・自由な選
択肢がある



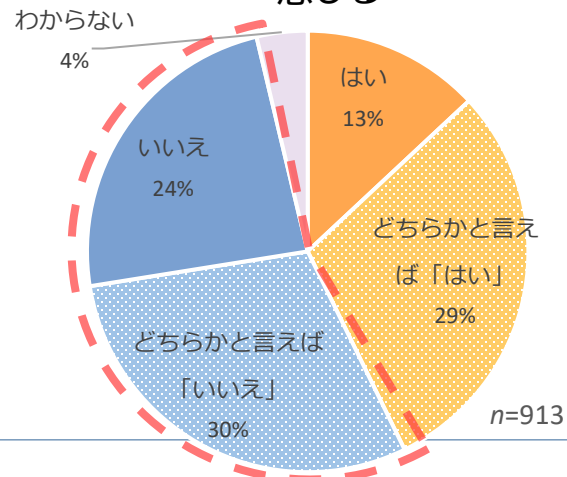
日々の生活において居場所がある
と感じる



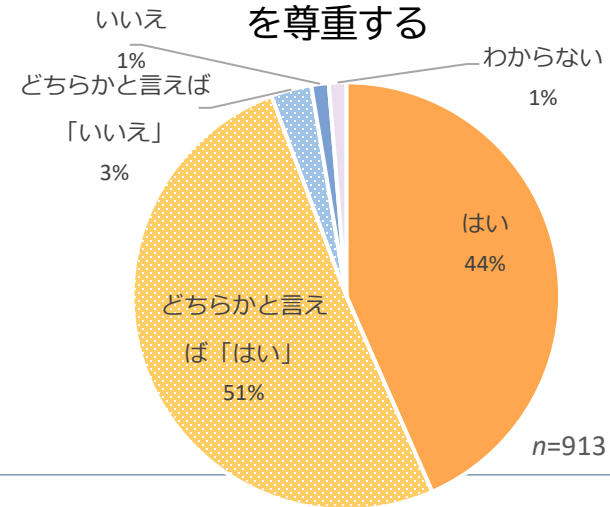
50%以上

35%以上

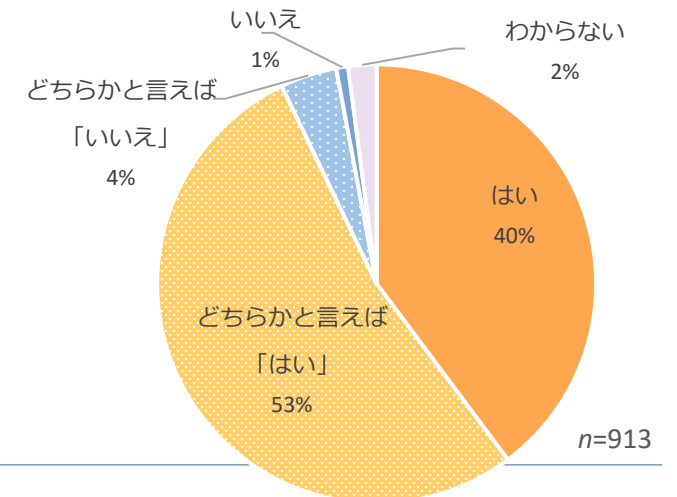
お住まいの地域とつながりがあると
感じる



他の人のさまざまな価値観や意見
を尊重する



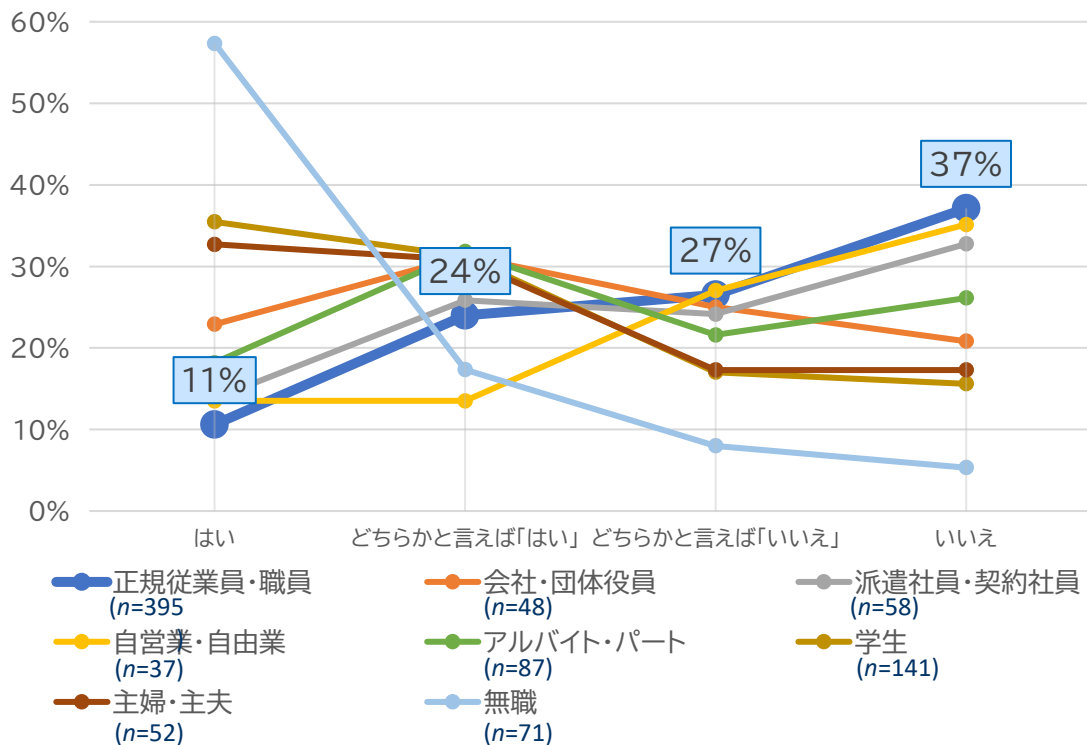
困っている人がいたら助けようとする



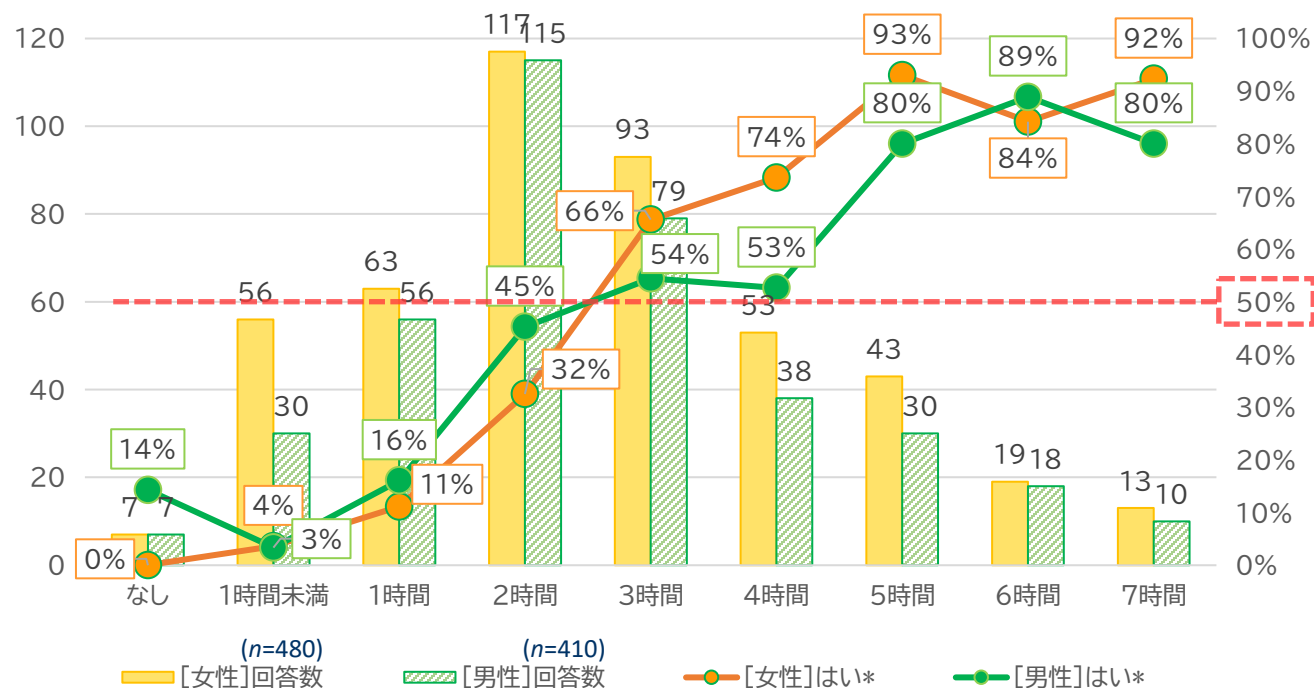
「余暇時間」満足は3時間以上だが、半数が2時間以下

- 働く人を中心に、余暇時間は十分でないと感じる（不満足）人が多い
- 男女とも「2時間」が最も多く、半数以上が満足していない
- 女性は3時間以上で満足、男性は5時間以上で満足

余暇時間は十分だと感じる(職業別)



余暇時間は十分だと感じる(男女別)



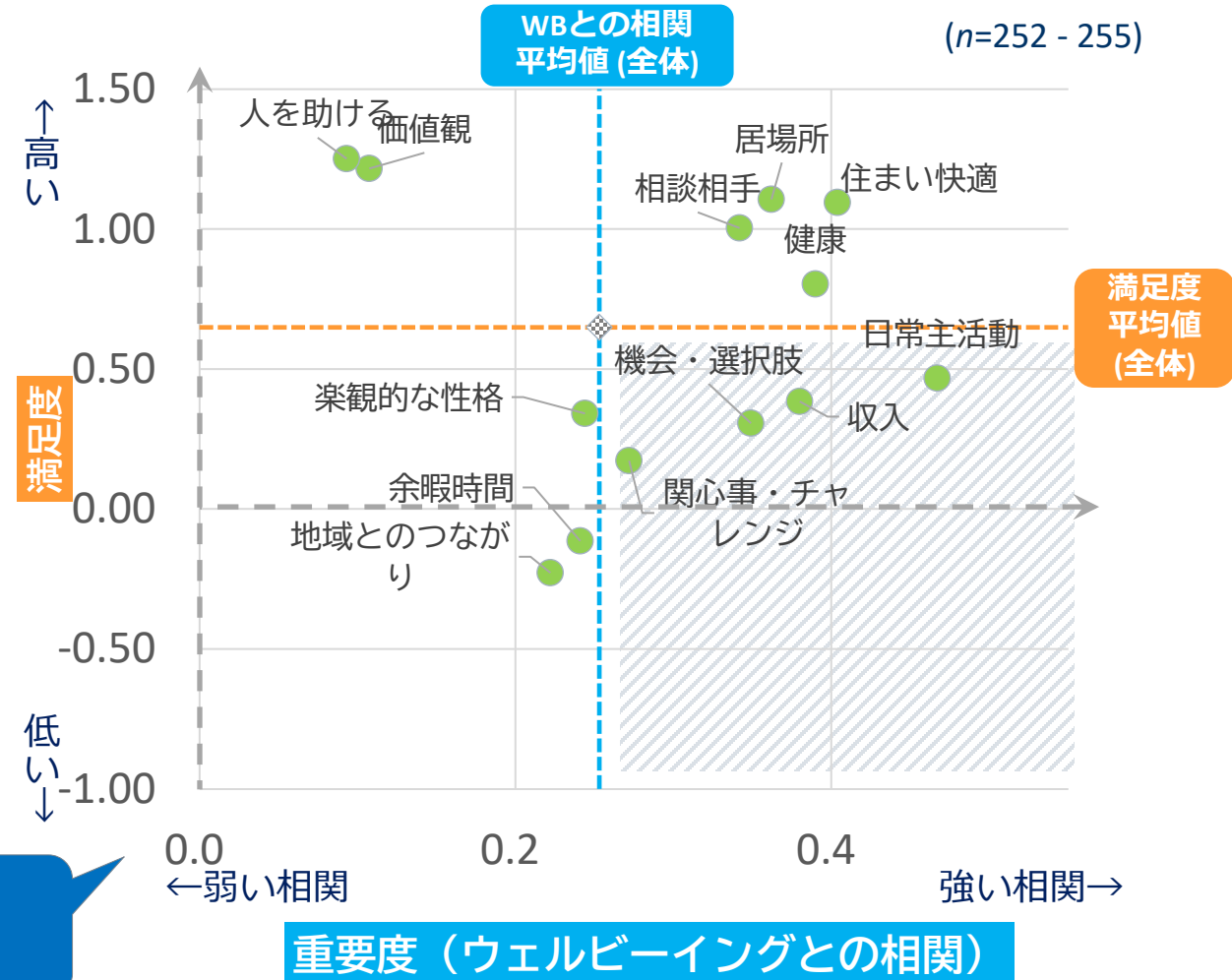
注：「回答者が答えた『平日1日あたりの余暇時間』は十分だと感じるか」の問いに対する回答。「はい」は「どちらかと言えば「はい」」を含む。「いいえ」は「どちらかと言えば「いいえ」」を含む。回答数合計に空白の回答は含まない。

【年代区分別】生活実感の満足度と重要度（50-60代）

- 50-60代は、ウェルビーイング現状評価（平均値）が相対的に低く、5年後評価（平均値）はさらに下降 p.10参照
- ウェルビーイングとの相関が高いが、満足度が低い4分野
 - 日常の主活動
 - 収入
 - 機会・選択肢
 - 関心事・チャレンジ

⇒これらの分野を高めることでウェルビーイング実感の上昇が見込まれる

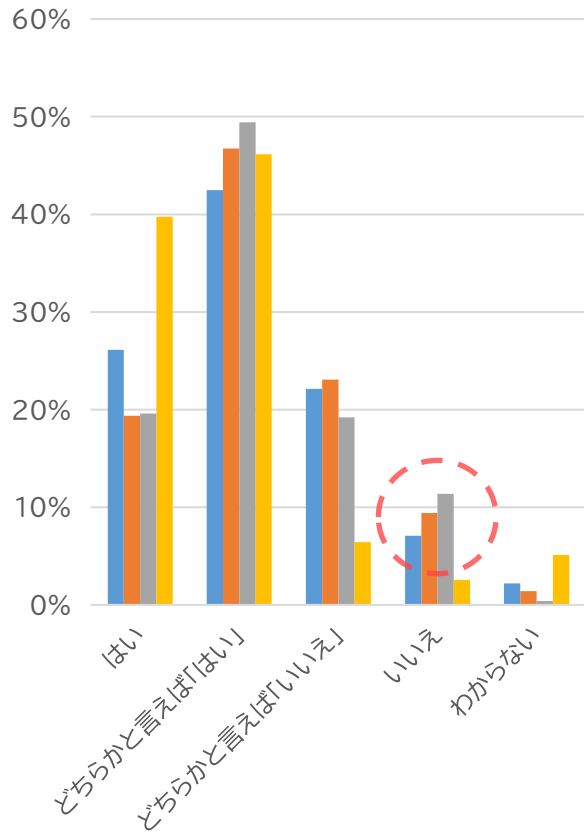
生活実感の満足度と重要度（50-60代）



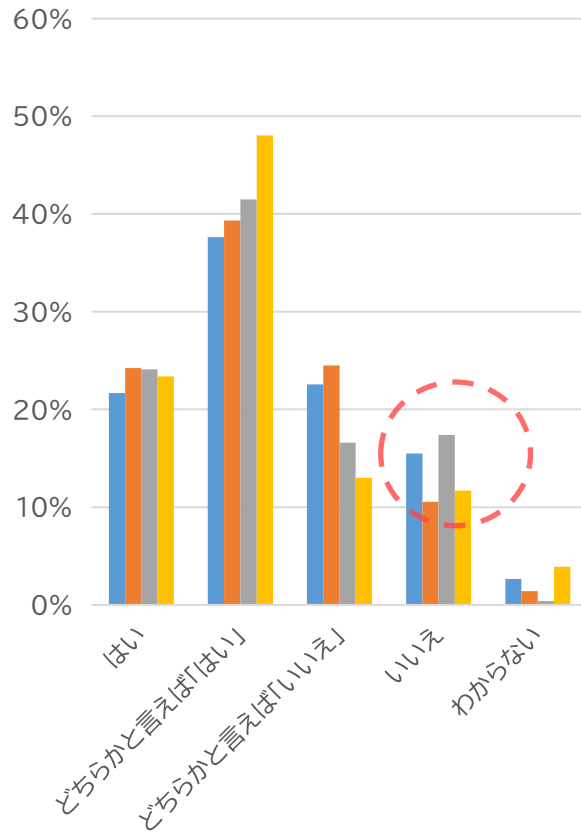
注：満足度は、問「生活における実感」の各項目の回答の「はい=2」「どちらかと言えば「はい」=1」「わからない=0」「どちらかと言えば「いいえ」=-1」「いいえ=-2」に置き換えて、全回答者の平均値を算出。重要度は、ウェルビーイング実感の現状評価と生活実感の各項目との相関係数（関係性の強さ）を用いた。相関分析ではどの項目も有意な相関が明らかとなっており、相関の弱い項目が重要でないことを示しているわけではない。

【年代区分別】50-60代ウェルビーイングに影響の強い分野

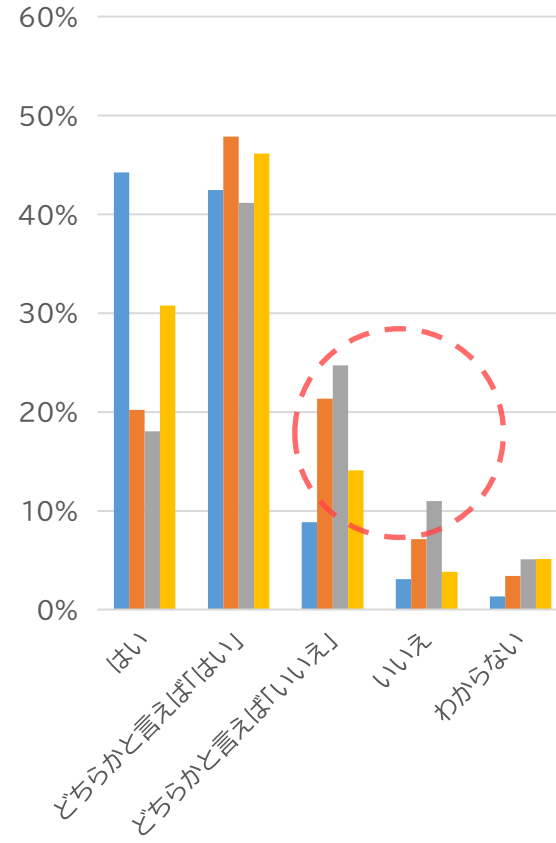
日常の主な活動に満足している



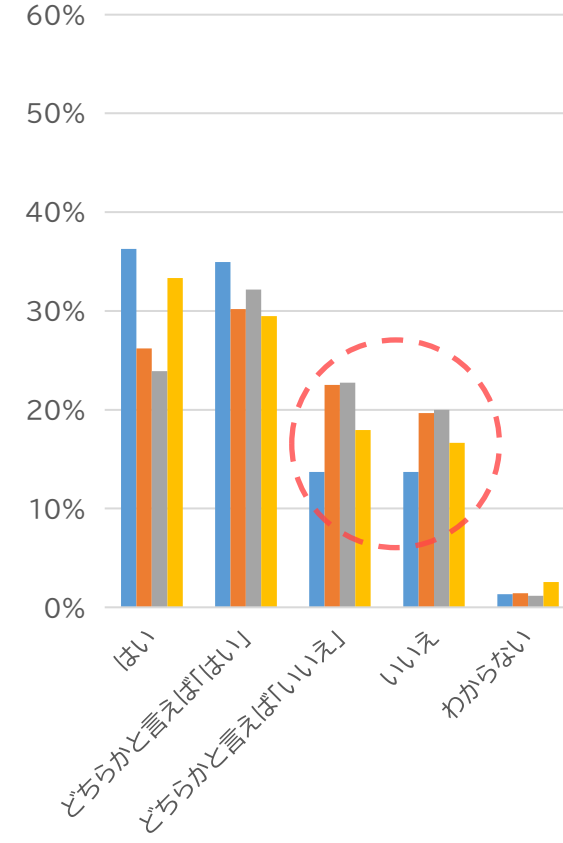
必要な収入を得られている



自分にはさまざまな機会・自由な選択肢がある



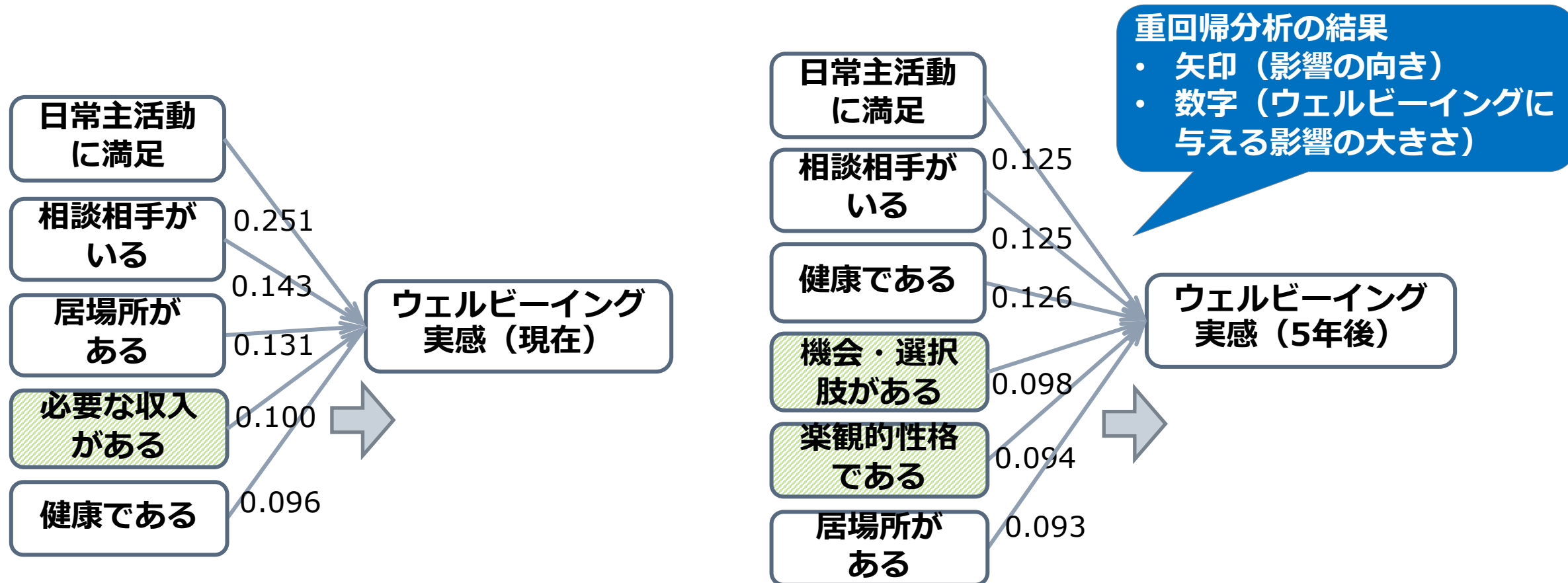
日常の主な活動の他に
関心事やチャレンジしていること
がある



■ 10-20代 (n=227) ■ 30-40代 (n=351) ■ 50-60代 (n=256) ■ 70-80代以上 (n=82)

ウェルビーイングの規定因

- ウェルビーイング現状評価に影響：日常の主活動、相談相手、居場所、収入等
- 5年後評価に影響：日常の主活動、相談相手、加えて、機会・選択肢等

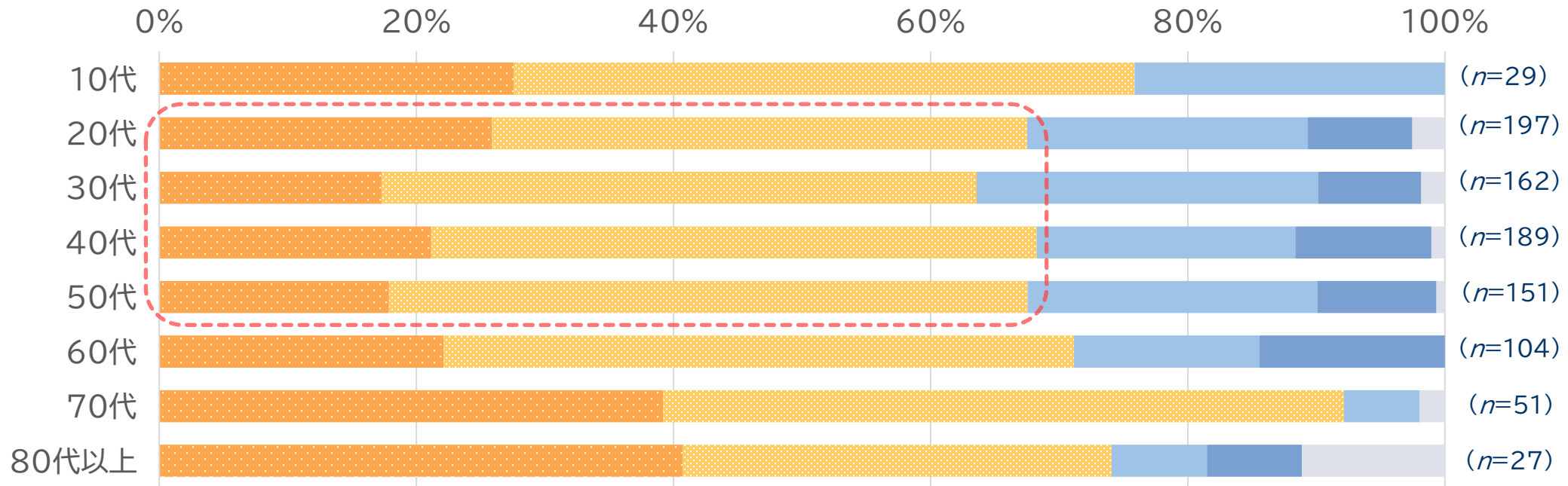


年代別（日常の主な活動への満足度）

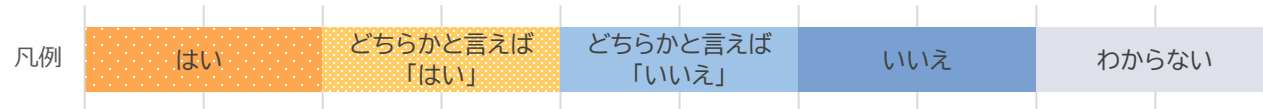
□ 20-50代の主な活動への満足度が若干他のグループに比べて低い

重回帰分析で見えてきたウェルビーイング実感の規定因

日常の主な活動への満足度(年代別)



有意差あり(χ^2 検定=0.00316)



【まとめ】

□ ウェルビーイングの定義

- 「日々の幸せ」は、「家族」「食事」「時間」「子ども」「健康」「友人」「仕事」「自分」等が挙げられている。「時間」に関して、「誰かと共有できる時間」「自由な時間」に言及
- 「より充実させるもの」は、「仕事」「家族」「健康」「お金」「環境」「子ども」「自分」「時間」等が挙げられている。「仕事」に関して、「やりがい」「バランス」「育児との両立」に言及

□ ウェルビーイングの現状評価

- 全体として「ウェルビーイング実感」は現状評価より5年後評価（予測）が高く、将来の見通しが明るい人が多い

□ ウェルビーイングの規定因とウェルビーイング実感向上のためのヒント

- 「日常の主活動」はウェルビーイング実感への影響が強い（図3）。活動の一つである「仕事」は自由記述の頻出ワードである。子どもを持つ女性は、男性に比べ「育児」への言及が多く、かつ男性同様に「仕事」への言及も多い。**仕事を続けながらもストレスなく育児を行える環境**が望まれている。
- 「余暇時間」はウェルビーイングへの影響は限定的であるが、働く人を中心に「余暇時間」の満足度が低い。一方、自由記述で「時間」への関心は高く、働く人だけでなく、今後の働き方を念頭に学生も「**ワーク・ライフ・バランス**」に言及しており、ウェルビーイングの実現に向けた重要な項目であると考えられる。
- 50-60代のウェルビーイング現状評価は他年代に比べて低く、ほとんどの生活実感項目で消極的評価である。自由記述で「家族」「健康」「仕事」が頻出し、仕事に関しては、退職が視野に入り生計維持や社会的活動を意識した仕事の継続や年金収入への言及がみられる。この年代層のウェルビーイングと相関の強い「**日常の主活動**」「**収入**」「**機会・選択肢**」「**関心事・チャレンジ**」などの**満足度向上**が、ウェルビーイング実感の向上につながると考えられる。
- 「日常の主活動」の満足度は、ウェルビーイングへの影響が強いが、20-50代の満足度が低い。**現役世代の主活動（仕事）の充実**が鍵であり、方策の検討には仕事に求めるものの把握が必要になる。